
第8章 充実した学習のために

1. シラバスとは

シラバスとは、授業計画のことです。授業科目のガイドブックで、これを読むと、授業の進め方や内容、達成目標（何ができるようになるのか）が明確にイメージでき、履修するかどうかなどの判断に役立ちます。また、教科書や参考書の紹介、予習・復習の内容なども書かれていて、自主的な学習への意欲が高まり、受講の成果を十分にあげられるような工夫が可能になります。

シラバスの内容が適切であることは、教育の質が高いことを示す一つの証と言えます。

2. シラバスの利用方法

シラバスには、「科目名」「単位数」「担当者名」「授業の目的・到達目標」「授業概要」「授業計画」「成績評価の基準」「教科書」「参考書」「備考・その他」「予習・復習」といった授業に関する必要事項が明示されており、受講科目の内容がわかるようになっています。よく読んで有効に活用してください。

[受講科目を登録する前に]

選択科目を登録する時に、科目名だけで判断するのではなく、「授業概要」「授業の目的・到達目標」及び「授業計画」をよく読んで、自分の学ぼうとしている科目がどのようなものであるかを確かめてください。さらに自分の能力、興味、関心、将来の進路なども考え合わせて、どの科目を履修すべきかを決めてください。

[受講の前に]

「授業計画」には授業開始から終了までの計画が示されていますので、授業全体の進度や展開の流れを知る上で参考になります。授業を受けようとする時、前もってその「授業計画」を知っておくと、学修効果が一層高まります。また、「予習・復習」には、予習や復習の内容等が示されているので、参考にしてください。準備しておくべきもの、留意事項等についてあらかじめ知っておくことが大切です。**受講の前には必ず確認してください。**

[受講中]

シラバスは担当者が前もって作成するものですから、学修の状況によっては、授業の内容や進度などが修正されることもあります。

[受講の後に]

受講後に授業内容を復習する時、ノートの整理をする時などにもう一度読み返してみることも必要です。また、授業を欠席した場合にも、その時の授業が何についてであったかを把握できます。

[卒業後に]

卒業後、就職や進学をする時の提出書類に、在学中に履修した科目内容について記載を求められることがあります。受講した科目のシラバスを印刷し、大切に保管しておいてください。

3. 本学のシラバス作成の姿勢と特色

本学では、『シラバス作成要領』を作成し、全教員はそれに基づいてシラバスを作成しています。その特色は以下のとおりです。

1. シラバス作成の目的

シラバスの目的を明示し、全教員で共有するように努めています。

2. 事前及び事後に受講して欲しい科目等

履修の順序性及び科目の関連性を踏まえ、授業を位置づけ、設計するように努めています。

3. 授業の到達目標

学習者の側に立って、達成可能な現実的なレベルの行動目標を「…できる」等の表現で掲げています。また、到達目標は、「知識・理解」「技能（技術・能力・スキル）」「態度」の3つの領域の観点から踏まえて設定するように配慮しています。（どの領域に重きを置くかは授業によって異なります。）

4. 授業の目的

授業の目的は、教育目標、修得すべき能力、学位授与の方針等との関係を参考に、記述するようにしています。

5. 授業の概要

授業の概要は、抽象的・専門的な用語をなるべく避け、わかりやすく、具体的に記述するようにしています。

6. アクティブ・ラーニングの活用の明記

アクティブ・ラーニング（能動的学修）とは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法を指します。今日の大学教育は、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業への転換が求められています。本学は、アクティブ・ラーニングに積極的に取り組んでいます。そこで、アクティブ・ラーニングを行っている授業では、授業概要にその旨を記載し、学生にもわかるようにしています。

7. 地域に関する学習の明記

今日、大学には地域を志向した教育・研究・社会貢献が求められています。本学は、すべての人の幸せ・生きがいをめざすという広い意味での福祉の理念のもと、地域共創（大学の持つ資源を活用して、地域のニーズに応え、地域の持つ新たな価値を創造し、共に地域の再生・活性化をめざす）に積極的に取り組んでいます。そこで、地域に関する学習を行っている授業では、授業概要にその旨を記載し、学生にもわかるようにしています。

8. 予習・復習

予習・復習等について示し、事前に学習の準備をして授業に臨めるように、また事後に知識・理解や技能、態度を確認し深めることができるようにしています。

9. 成績評価の基準

授業の到達目標をどの程度達成できたかを、「知識・理解」「技能」「態度」の3つの観点から踏まえて多面的に評価し、その配分割合を明記するようにしています。また、適宜、評価基準を示すようにしています。

10. 授業計画

到達目標の達成に必要な、「知識・理解」、「技能」、「態度」を獲得し、さらに深めてゆくことができるように、順序よく計画を立てるようにしています。また、1回毎の授業の概要をわかりやすく短文で示すようにしています。

1.1. 教科書・参考書

授業やその学問領域への興味・関心を高めるもの、自ら学ぶのに役立つもの、さらに学びを深めるために有用なもの等を、教科書か参考書かを明確に区別して紹介しています。

1.2. 第三者による確認

シラバスが適切かどうか、毎年の入稿時に第三者が確認を行うようにしています。

4. インターンシップ

[インターンシップ]

インターンシップは、学生が在学中に一定期間、企業等において実習・研修的な就業体験をすることです。実際の職場経験は、自らの職業適性や将来設計を考える良い機会となり、卒業後の進路を主体的に選択していくことができます。

インターンシップを通じて、現在学習していることが社会でどのように活用・展開されているかを知り、職場で得た問題意識を学びの糧にして、今後の学習への動機づけを行います。また、社会と接点を持つことにより、イメージと現実のギャップ・抵抗感を解消し、地に足の着いた職業観や社会人としての自覚を育成する機会ともなります。

インターンシップは、あくまで教育の一環であり、アルバイト又は就職につながるものではありません。したがって、報酬はなく、諸経費（旅費交通費・昼食代）も学生負担となっています。

[インターンシップの実施時期・期間について]

インターンシップの実施時期は、授業に支障のない夏季又は春季休暇中で、期間は1週間から1ヶ月間くらいまでが一般的です。

[本学におけるインターンシップの実施]

学生就職課では、派遣学生が安心して取り組めるように、事前・事後に研修を行います。

インターンシップに関する情報は、学生就職課ホームページや掲示板でお知らせしますので、こまめに情報をチェックしてください。

<http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/career/index.html>

[平成27年度のインターンシップ実績]

(1) 実施状況

インターンシップ実施学生数 : 38名
インターンシップ先事業所数 : 44事業所

(2) 都道府県別

都道府県	実習先数
岐阜県	42
福岡県	1
東京都	1

(3) 主なインターンシップ先一覧

※敬称略

大垣信用金庫	郡上大和総合開発
岐阜トヨペット(株)	鳳建設
トヨタカローラ岐阜	大橋量器
ホンダカーズ岐阜	トライ フィット
MINI 岐阜	岐阜冠婚葬祭互助会
岐阜市	のうひ葬祭
生活協同組合コープぎふ	ポーラ ザ ビューティー岐阜
東濃ひのき製品流通協同組合	恵那市
特定非営利法人 Meets Vision	美濃市
ヨツハシ	自衛隊
ヒロタ	岐阜県経営者協会
アフレッサ日建産業	